

山田 ゆかり

東京医科歯科大学大学院 助教授

居宅介護支援事業所における入退院時の診療情報把握の現状と問題点

本研究では利用者の入退院時に着目し、事業所の診療情報の入手実態を明らかにし、医療と介護の情報共有を促進するための方策を検討することを目的とした。

WAMネットより、150の事業所を無作為抽出した。2006年2月に事業所特性を訪ねるアンケートと、介護支援専門員（以下ケアマネ）の特性、診療情報の入手状況・方法等を個々のケアマネに尋ねるアンケートを同封して配布し、ファックスによる回答を得た。

その結果、多くのケアマネは利用者の診療情報を必要としていたが、半数程度しか得られていなかった。診療情報の共有には、ケアマネが「入院先に直接出向く」等、互いに顔の見えるコミュニケーションが重要なことが明らかとなったが、現行のシステム・環境において困難な点が多い。そこで、診療情報は本来、利用者自身のものであるという観点から、今一度、診療情報を利用者自身の手に戻すこと、これが一つの解決策となる可能性が示唆された。